



## 令和3年度 研究員の研究分野についてお知らせします

研究テーマ 「**子供が主体性を発揮できる学校づくり**」  
 ～一人一人の学びを支える伴走者として～

### ふるさと学習の評価

探究的な活動を評価するための、ルーブリック表を使った形成的評価の手立てを研究しています。教師は、子供たちの学習状況を把握することによって、授業改善につなげることができず。子供は、自身が培った資質・能力を自覚することで、見通しをもって主体的に活動に取り組むことができます。教員の負担が最小限になるよう、タブレット端末を活用した評価の方法を目指します。（濱崎）

### 学びをつなぐ幼小接続

幼児期に培った力を発揮し、学びをつなぎ、積み上げるためのスタートカリキュラムの計画実施や、授業づくりについて研究しています。子供の「経験知」に着目し、子供と共に授業を創造することで、主体性を発揮できる環境をつくり、探究への意欲や気づきの質を高めます。中学年以降の教科へつながる生活科授業を目指します。（宮田）  
 【1年目の研究についてはSTEP4月1日号参照（QRコード）】

### 子供主体の小学校理科授業

教え込む授業からの脱却を目指し、子供のアウトプット中心の授業を実践しています。子供に委ねる時間が増えるほど、教師としては不安が大きくなりますが、課題提示や学級での協働の方法を工夫することで、主体性を高め理解を深めることを目指します。特に教え込んだ方が効率的だと考えられている分野で、子供のアウトプットをもとに授業がすすめられるような手立てを研究しています。（山本）

### 多様性を認め合える集団づくり

子供が主体性を発揮するためには、多様性を認め合い、助け合える集団づくりが大切です。そこで福井県版ポジティブ教育と障がい理解教育の実践を軸に自己肯定感や集団の肯定感を高め、多様なものの見方、考え方を身につけることを目指します。さらに、それらを土台とした子供同士をつなぐための手立てを研究しています。（栗原）

### 子供が深く考えたくなる 道徳の授業づくり

子供が当たり前だと思っている概念を崩し「あれ、どういうことだろう」「もっと考えてみたい」と考え始める道徳授業について研究しています。また、自分の意見を伝えるのが苦手な子供たちも伝えたい手立てを工夫しています。導入で価値の本質につながる発問を投げかけ、子供の発言に沿いながら問い返したり揺さぶったりすることで、一人一人が主体的に考える姿を目指します。（百田）